

白川静著『初期万葉論』『後期万葉論』

#### 目次 ◆ index

### 第13号 発行 19.4.30

## 白川静記念東洋文字文化研究所立命館大学

URL http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/URL http://www.ritsumei.ac.jp http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/sio/index.html

	<i>,</i> ,	•	1 11	u (	J 21														
今年度の事業計画について	表紙の写真について	書籍紹介	「文字講話」特別上映会	オンライン公開講座	八年目を迎えた「漢字教育士」の活動	久保 裕之…	第九回創作漢字コンテスト 加地 伸行…	裕之…	教育活動報告	「鯱旗+R甲骨体」「鯱旗+R金文体」公開	二〇一八年度連続公開講座 高島 敏夫…	漢字学研究会活動報告 大形 徽…	漢字学研究会シンポジウム「中国古文字学研究の最前線」…	第五回東亚漢籍交流国際学術会議 … 芳村 弘道…	第五十一四日本古文書学会大会(共催)	对 弘道…	立命館白川静記念東洋文字文化賞の選考結果について…	弘道::	年頭所感 杉橋 隆夫
20	20	20	19	19	18	17	17	14	13	12	11	9	8	7	6	6	3	2	2

### 年頭所感

## 所長杉橋 隆夫

だきます。
二〇一九年、平成最後の年明けに際し、些かの感慨を述べさせていた

まず昨年四月に、当研究所は新たな決意の下に新年を迎えたわけで事・資料、遺品の多くを学校法人に寄贈賜りました。かれこれまことに書・資料、遺品の多くを学校法人に寄贈賜りました。かれこれまことに書・資料、遺品の多くを学校法人に寄贈賜りました。かれこれまことに書・資料、遺品の多くを学校法人に寄贈賜りました。かれこれまことに書・資料、遺品の多くを学校法人に寄贈賜りました。かれこれまことに書・資料、遺品の多くを学校法人に寄贈賜りました。

て抽出列記しておくと以下の通りです。
研究所のこれからの課題は、前号に箇条書きしておきましたが、改め

○東洋文字文化研究の世界的規模における拠点化

○白川文字学から白川学への展開

○若手研究者育成システムの構築

○啓蒙・教育活動拡充

○施設問題の解決

の期待を示しておられました。と考え、「次年度早々に」も本格的な「設置場所」が決定されるものと二〇〇六年三月刊行の本誌創刊号において、現研究所施設を「仮事務所」特に最後の施設問題は喫緊の課題です。そもそも白川先生ご自身、

白川研究所としても、この度の常設研究所化にともなう処置の一環とし折しも昨今、衣笠キャンパス整備計画が議論されているようですし、

る次第です。

る次第です。

の構想を固めたいものです。そのためには他の研究所との連携や関係での構想を固めたいものです。そのためには他の研究所との連携や関係で、またこの間の研究所機能の拡充・新展開を踏まえ、恒常的施設として、またこの間の研究所機能の拡充・新展開を踏まえ、恒常的施設として、またこの間の研究所機能の拡充・新展開を踏まえ、恒常的施設として、またこの間の研究所機能の拡充・新展開を踏まえ、恒常的施設として、またこの間の研究所機能の拡充・新展開を踏まえ、恒常的施設として、またこの間の研究所機能の拡充・新展開を踏まえ、恒常的施設として、またこの間の研究所機能の拡充・新展開を踏まえ、恒常的施設として、またこの間の研究所機能の拡充・新展開を踏まる、

(立命館大学名誉教授)

# 書籍・資料類の受贈白川静博士御遺蔵の

副所長 芳村 弘道

を申し上げる。 こ○一八年九月一二日に、白川静博士の御遺族が博士遺蔵の書籍・資 二○一八年九月一二日に、白川静博士の御遺族が博士の感謝 を申し上げる。

雑誌、 いくつかの注目すべきものを以下に簡単に紹介しよう。 家来函、 文等抽印、 した。目録は仮に分類して、 ⑭書画肉筆・拓片、⑮ビデオ、⑯会議資料等、 ○月から一月半をかけ、筆者が基礎的な整理も兼ねて略目録を作成 ⑩韓国書、 ⑩その他とし、著録すべて一一二二点に達した。 ⑤著書校正編集関係、 ⑪研究資料、 ①先生著書、 ⑫諸家論文・原稿、 ⑥和書、 ②手稿等、 ⑦和雑誌、 ⑰表彰関係等、 ① 新聞・ ③手稿油印、 ⑧中国書、 これらの中で 雑誌切り抜

われる。

いる。 順化幼稚園の 生が受け継がれたのであろう。また小学生時の絵画一幅や⑰中の福井市 があると聴いていたものに違いなく、今回の寄贈に際して書架の下から ④の中に先生の小学一年時の習字作品があって驚かされた。それは「チ 先生の墨書にかかる。この卒業論文は白川学の出発点というべき貴重な 著作集に未收で、 孜々として止まざる先生の学問精神が如実に伝わり、粛然とさせられ 見出したとのことである。おそらく御母堂が大事に保存され、それを先 の津崎史様によれば、父から小学生の時に全校生の前で習字をしたこと ユウギナ人」と雄渾な運筆でしたためられた長めの条幅である。 より以前、すでに社会的な注目を受けて活躍されていた先生が偲ばれる。 プブック「白川先生関連記事」五冊があり、『字統』などの字書三部作 一点である。⑫は諸家より送られてきた論文の抜き刷りが多くを占めて の両先生。橋本先生の墨書による審査報告書を付し、 本学法文学部文学科漢文学専攻卒業論文で、 また講義油印本 あるが、これには後年、公刊の際と思われる訂補が多く加えられており |禘祭考--| がある。これは先生が昭和一八年七月一五日に提出された ①には先生が鉄筆を揮って講義用に油印された『詩経研究通論篇』 ⑬にはツル夫人が作成されたと思われる新聞切り抜きのスクラッ 「保育証書」、 『中国の歴史と文化―東洋的精神の母胎― 出版が待たれる一本と思う。②では 順化小学校の「修業証書」なども同様と思 審査員は橋本循・本田成之 表紙の署題も橋本 「支那古代の祭祀 (仮題)』 御長女 は が

制作は稀であったので、 しておく。 に目を向けられた作が少なくないが、 (一九四 最後に②から七言絶句の連作 夢非なり」とあるので、数え年、三十九歳すなわち昭和二十三年 先生は、 の所詠と推測される 短歌を詠まれることは比較的多かったが、 この手稿は甚だ貴重である。 (満年齢ならば翌年の作)。 「消夏漫吟 原爆の惨禍を詠われた第九首を録 似而非詩二十首」 第一 首 戦後の社会 漢詩 を紹 九 0 介

> 落として殺害した故事の比ではない惨いことであるとの意 しておきたい (結句は項羽の楚軍が新安で秦の兵卒二十余万人を地中に

閃空濛雲氣生 閃 空濛として 雲気生じ

無辜十萬瞬時没 風加處霹雷轟 爆風 無辜の十萬 加はる処 瞬時に没す 霹雷轟く

·比新安流血

不

阬 新安流血 の阬に比せず

(文学部教授)

## 立命館白川静記念東洋文字 文化賞の選考結果につい

本賞の制定がその一助となることを願っています。 います。日本社会・文化の継承と発展、 ために、 文化研究所が、東洋文字文化の分野における有為な人材を奨励支援する 立命館白川静記念東洋文字文化賞は、立命館大学白川静記念東洋文字 功績のある個人および団体の業績を表彰することを目的として 東アジアの平和と繁栄のために

席のもと執り行われ、 ス平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルームにて、 の受賞が決定しました。 二〇一七年度も全国より応募があり、 授賞式は二〇一八年五月二六日 その後、 上野誠氏の「ある万葉学徒の迷い (土曜日) 厳正な審査の結果、 午後二時から衣笠キャンパ 吉田美喜夫総長臨 お二人の方

きして、 る東アジア文化交流」 一回本賞受賞者の高麗大学校漢字漢文研究所所長の沈慶昊教授をお招 特別講演 「韓国朝鮮の漢字文化」を行って戴いた。 の受賞講演が開催された。 続いて、 二〇〇六年

命館白川賞を拝して一

―」と松井太氏の「敦煌石窟の多言語銘文からみ

# 立命館白川静記念東洋文字文化賞優秀賞〈第十二回〉二〇一七年度募集分

上野 誠

奈良大学文学部教授

受賞理由

説くところは、 世界すなわち南山とし、そこに七賢人が遊ぶと見立てて詩が作られたと 体の中に凝縮されていると仮定し、万葉讃酒歌十三種の死生観は、『荘子』 も追求している。すなわち、 書きかたについて、それを辺境文化の創造性と評価し、思想面において ている。また、日本人の、外国文化である漢字を用いての多様な使い方 年の発掘や研究成果をも背景としてその実体が具体的に詳細に論述され 官僚は、壬申の乱の出発点となった吉野を、天子と仙人とが出逢う神仙 いとする解析は傾聴に値する。さらに、六朝文学に親しんだ日本の文人 式化などによって明快に展開している。その際、考古学界における、 葉集』とはどういうものか、等について具体例を示し、巧みな比喩や図 えば、歌を書くとはどういうことか、歌集を作るとはどういうことか、『万 万葉文化論を構想し、その文化の具体相を解明することに成功した。 祭祀・芸能の具体的様相を観察する目をもって、『万葉集』を対象とし、 『列子』を淵源とする、戴逵 上野氏は、民俗学的解析を方法とし、その調査・研究を通して培った 上野氏ならではの優れた考察である。 九州の太宰府に到着した<知>が、 (中国・東晋時代の知識人)の分命論に近 短歌 近

### 受賞者の声

ればならないなと思っております。誠に光栄な事でございます。身が引き締まる思いで、また精進しなけ



色々な意味を持たせて認識しているのではないかと考味を決めて捉える事が多いのですが、そうではなく、味を決めて捉える事が多いのですが、そうではなく、のいてお話をします。色を認識する際には、一つの意

私は、白川先生の学問は、生活と宗教の学・手の学問だと思っておりえて現在研究を進めております。

ます。つまり、実感の学だと思います。実感のない所に文学研究はないと思っています。白川先生は、発展段階に応じて比較をしなくてはいけと思っています。白川先生は、発展段階に応じて比較をしなくてはいけます。つまり、実感の学だと思います。実感のない所に文学研究はないます。できまでは、対しています。

きく飛躍をしたいと思います。
さな研究分野ではありますが、この白川先生の賞を頂いたことで私も大展開として万葉集研究もあるのだと私は考えています。万葉集研究は小展開として万葉集研究もあるのだと私は考えています。万葉集研究は小店く言えば、大きな東洋の文字文化の流れの中に、『詩経』・『万葉集』・広く言えば、大きな東洋の文字文化の流れの中に、『詩経』・『万葉集』・

# 立命館白川静記念東洋文字文化賞優秀賞

### 松井太

大阪大学大学院文学研究科教授

### 受賞理由

進め、史料としての確定に貢献した点である。同氏は、多種類の言語・研究中、特に評価したのは、敦煌石窟群に遺る多くの銘文資料の読解を言語に精通し、大量の現地出土文献の調査・研究を蓄積してきた。その言語に精通し、大量の現地出土文献の調査・研究を蓄積してきた。その経典であり、その研究は非常に困難である、その多言語・多文字史料をが、東には、敦煌を研究対象の中心とする。敦煌は多種多様な言語の重とめ、史料としての確定に貢献した点である。同氏は、多種類の言語・経井氏は、敦煌を研究対象の中心とする。敦煌は多種多様な言語の重とめ、史料としての確定に貢献した点である。同氏は、多種類の言語・経井氏は、敦煌を研究対象の中心とする。

敦煌学・中央アジア学分野は中国

欧米など世界中

の研究者と競争を

萩原

正樹

(立命館大学文学部

資料現地調査は、 大である。 がいちじるしい。 性である。 な読解成果を生み出している。 存状態の良くない銘文の実地調査・研究に果敢に取り組み、 文字理解の上に立ち、 さらにもう一つ、 文字たりとも見逃すまいとする厳密な注意力と、 、成果とは、 百年以上にわたって、 近年、 しかし、 世界における研究水準を高めることに寄与するところ 先行研究諸文献を消化しつつ、 高く評価すべ 当然なことながら、 松井氏の成果にはそれらを凌駕するもの このような地道な作業の価値は非常に高 世界の研究者が行ってきた敦煌の文字 、きものがある。 現地中 それは、 国 特記すべきは、 の研究者らの業績 先行研究手法に 個 研 別の 究の が多 世 正 界 保

### 受賞者の声

おります。とで望外の喜び、身に余る光栄で、大変恐縮いたしてとで望外の喜び、身に余る光栄で、大変恐縮いたして優秀賞を頂戴することとなりました。思いがけないここの度、第十二回立命館白川静記念東洋文字文化賞

と思っております。
・ 受賞の対象となりました私の編著書は、東京外国語となりました私の編著書は、東京外国語とのが表別で組織した共同研究プロジェクトを関する。

ジアの ります。 シルクロードと呼ばれた中央アジア・内陸アジアの歴史を対象としてお て評価下さったことを、 このような多言語・多文化の研究を は東洋史学を専攻しております。 諸民族が用いた多様な文字・ その際は、 漢字・漢語に限らず、 まことに嬉しく思います。 言語の資料を扱うことが求めら 敦煌や新疆を中心に、かつて西域 「東洋文字文化 東アジア・北アジア・中央ア の枠組みに n

きたいと決意を新たにいたしております。よう、気を引き締めてグローバルスタンダードで今後の研究を進めてい要求されています。白川賞を頂戴したからには、白川先生の名に恥じぬ

(以上、編集部)



第 12 回「立命館白川静記念東洋文字文化賞」表彰式の様子 (2018 年 5 月 26 日、立命館大学衣笠キャンパス平井嘉一郎記念図書 館カンファレンスルームにて) 前列左より加地研究顧問、杉橋所長、吉田総長、上野誠氏、松井太氏、 沈慶昊氏

#### 委選 員考

委員長 委 杉橋 芳村 下中 加地 上野 伸行 隆夫 弘道 美都 (立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所 (立命館大学文学部 (立命館大学文学部 (株式会社平凡社 (立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所 代表取締役社長 教授 教授 研究顧問 所長)

# 学術事業活動概況 (二〇一八年度)

副所長 芳村 弘道

動を行った。
立命館大学の常置研究所として新たな活動を展開することになった
○一八年度において、①中国の漢字を中心とする文字文化の発展・受
○一八年度において、①中国の漢字を中心とする文字文化の発展・受

ウムに先だって行われ 究の最前線」を開催した。これには第一部として三名の講演がシンポジ 十月の六日・七日にドイツで開催された「第六届世界漢字学会 表、また白川静博士の研究を受け継ぐ新出土金文の訳注の作成などを行 続し、甲骨文・金文・出土資料の木簡・竹簡・帛書などに関する研究発 表を行った。二〇一九年二月二四日にはシンポジウム「中國古文字學研 形徹衣笠研究機構客員教授による主題発言や張莉客員研究員等の研究発 知工具與表意文字歷史研究」に參加し、杉橋隆夫研究所所長の挨拶、 い、その成果を『漢字学研究』第六号として十月末に刊行した。同じく ①のプロジェクトでは、 漢字学研究会の定例開催 年間 漢字認 を継 大

二名)を行い、総合討論をもって終了した。詳細は別掲の紹介文をご覧字漢文研究所との学術協定に基づき、二○一八年十二月八日に「第五回字漢文研究所との学術協定に基づき、二○一八年十二月八日に「第五回字漢文研究所との学術協定に基づき、二○一八年十二月八日に「第五回字漢文研究所から各二名の研究発表とそれに対するコメント(これも各機関当研究所から各二名の研究発表とそれに対するコメント(これも各機関学文研究所から各二名の研究発表とそれに対するコメント(これも各機関学文研究所がある。

翌九日は前日と同じ会場で、

午前・午後各五本の個別研究発表が行わ

行った(二○一八年八月)。

完者と燕行使の持ち渡り明版『古詩帰・唐詩帰』をめぐって共同研究を寄者と燕行使の持ち渡り明版『古詩帰・唐詩帰』をめぐって共同研究所の研事館(同年三月)に赴き実施するほか、高麗大学校漢字漢文研究所の研年八月)・東京大学総合図原きたい。また「朝鮮渡り唐本」の調査を東京都立中央図書館(二○一八原きたい。また「朝鮮渡り唐本」の調査を東京都立中央図書館(二○一八

究員と芳村による報告が行われた。
に共催団体として参画した。研究発表では情報理工学部教授の前田亮研に共催団体として参画した。研究発表では情報理工学部教授の前田亮研3日本文献研究の活動としては、「第五十一回日本古文書学会大会」

以上の詳細は後掲の各報告を参照されたい。

# 第五十一回日本古文書学会大会(共催)

所

長

隆

夫

r V てなお た。長年に及ぶご自身の研究を踏まえた深い真理と、 題して、かつて研究交流があった白川先生の学識にも触れつつ講じられ 有氏が「東寺百合文書整理の一齣―新しい中世古文書学を目ざして」と に続いて、立命館白川静記念東洋文字文化賞大賞の受賞者でもある上島 た。公開講演は金田章裕「古文書との出会い―一歴史地理学者の幸運―」 辞の後、 彩館大ホールをメイン会場として、百数十名が参加、盛大に挙行された。 会大会は、 感銘を与えた。 第一日目は午後からで、恒例の学会会長 本研究所が共催団体となって開催された二〇一八年度の日本古文書学 「新しい古文書学」を追究して止まない研究意欲は、 歴彩館館長 九月八日(土)~十日(月)の三日間、 次いで総会、 (金田章裕氏) とともに私からも共催の挨拶を述べ 懇親会が催された。 (村井章介氏)による開会の 京都府立京都学・歴 九十歳半ばに達し

分野が、 明文庫の漢籍」 文字のディジタル化とその活用」 館小ホー ある「陽明文庫デジタル閲覧コーナー」と相俟って、 強い関心を呼んだ。 例に標題に迫った。当該学会としては大変珍しいテーマであり、 る代表報告 見学会では館蔵品である東寺百合文書 午前の部では、 ルにて閲覧に供せられた。 広く世界に及ぶ事実を改めて想起させ、 (他にバドジャガル・ビルゲサイハン氏、 は午後の部に配され、日本古文書学会の研究対象とする 研究所副所長の芳村弘道・文学部教授による報告「陽 当研究所研究員の前田亮・情報理工学部教授によ は、 「白川フォント」 (国宝) 翌日の見学先の一 重層的興味を惹起 中の優品も、 李康穎氏) の開発と応用 聴衆の 「古代

### 第 五 回 東亜漢籍交流国際学術会議

副所長 芳 村 弘 道

を本学衣笠キャンパス存心館二階において開催した。この国際学術会議 大学校漢字漢文研究所との共同により第五回東亜漢籍交流国際学術会議 二〇一八年十二月八日に当研究所は、 南京大学域外漢籍研究所、 高麗 東

を企図するものである。 アジア地域の文化がいかに展開したかを考 は、 協定を締結、 および高麗大学校の二研究所と相互に学術 義を明らかにするための研究の国際的交流 究所での前回の会議に参加し、 十二月九日に行われた南京大学域外漢籍 書物を通しての交流によって古来、 東アジア社会の漢字文化の不変的意 あわせて二〇一八年度の主催 当研究所は、 南京大学 昨年

> を確約し、 今回の東亜漢籍交流国際学術会議を開催するに至った。

示し、 て下さるという内容であった。 のような襲名により何代も続くことが朝鮮にはなかったことにも言及さ とを文献に徴して解説を加え、また刊行者が一代で途絶え、 刷と官営書肆設立の要請が再三議せられたものの実現しなかったことを 官衙を主流とし、 ついて」を行った。 授・麗澤大学客員教授の藤本幸夫先生による公開講演 長より行われ、 午前十時、 東アジアの書籍出版の実態を理解する上の多くの重要な知見を与え 一方、 が下層官人によって編撰せられ民間で出版 通俗的なダイジェスト本・韻書・類書 この国際会議開催に当たっての挨拶が杉橋隆夫当研究所所 引き続き朝鮮本研究の第一人者である富山大学名誉教 書籍の慢性的な不足情況に陥っていたため、 先生の講演は、 李氏朝鮮時代の出版が中央・ (坊刻) (作詩文のための参 「朝鮮の坊刻本に されていたこ 日本や中国 官板の増 地方の

考書)

その後、 に行われた。 なかった遺品を今回の寄贈で見出した感慨などを話された 贈品の目録を森島理事長に贈られ、森島理事長から感謝状を受けられた。 博士御長女)、 さった。公開講演会の後、 遺族が博士遺蔵の書籍・資料類すべて約一一〇〇点を当研究所に寄贈下 一〇一八年は白川静博士の十三回忌の年に当たり、 津崎様が挨拶をされ、 先ず杉橋所長が御寄贈の経緯を説明し、 森島朋三学校法人立命館理事長、 その寄贈式典が御遺族代表の津崎史様 話しには聴いていたが実物を見ることが 杉橋所長の出席 これを記念して御 ついで津崎様が寄 のもと 白川

学校漢字漢文研究所の沈慶昊所長の挨拶をもって終了した。 会式となり、 評論が行われた。 から多くの聴講者の参加を得て、 午後 参加者全員による宇治方面の文化考察を行い、 一時半から研究発表会を開催した。午前の部に引き続いて学内外 杉橋所長、 有意義な意見が盛んに交わされ、 南京大学域外漢籍研究所の張伯偉所長、 下記の通りの研究発表とそれに対する 万福寺、 予定時間を越えて閉 平等院を訪 なお翌日に

は、



刷実演も見学した。 れ、万福寺塔頭の宝蔵院では黄檗版 『一切経』の『大般若経』板木の印れ、万福寺塔頭の宝蔵院では黄檗版『一切経』の『大般若経』板木の印

### 《研究発表》

卞東波(南京大学)「唐代詩僧貫休詩歌古注本—海門元曠《禪月大師居

### 詩略注》考論

宗好彬(啓明大学校)「『西京稗史抄畧』と「平壌戦記」―清日戦争の記沈慶昊(高麗大学校)「朝鮮(李朝)前期における地方木版印刷の発達様相」吳正嵐(南京大学)「朝鮮時代趙斗淳對司馬光易學的接受及其背景」

# (立命館大学)「立命館大學「詞學文庫」庋蔵森槐南手識手校本《絕倒(立命館大学)「森槐南の詞學―詞の起源について」

妙好詞箋》

研究

詹千慧

萩原正樹



第5回東亜漢籍交流国際学術会議 (2018年12月8日、立命館大学衣笠キャンパス存心館にて)

# 「中国古文字学研究の最前線」報告漢字学研究会シンポジウム立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所・

されたものである。聴講者は四十二名。(日)、立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルームにて開催本研究所)および漢字学研究会の主催により、二〇一九年二月二十四日本シンポジウムは、立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所(以下、

### 第一部 講 演

「出土文字史料に見える古代中国語文法の変遷:『其』を中心に」

周以降における言語との間に断絶があることが論じられた。 とした。 であり、 者が実体験していない非現実事態マーカーであるとする。 戸内氏は、 量 推量」といった区別は、「其」が文脈に入り込んだ段階で分かれる解釈 上古中国語における副詞の 疑 間といった多義語や、 講演ではこのほか、 いずれの場合においても「非現実事態」 主要動詞の前の「其」はモダリティ副詞と判断すべきで、 婉曲の語気を表すなどとされてきた。だが 六つの挙証から、 「其」については、従来、意思・命令・ 戸内俊介(二松学舍大学文学部准教授) 甲骨文における言語と西 から外れることはな 「意思」「命令」

# 「今振り返る、出土文字史料の発見と諸子百家の研究」

子思『中庸』や孟軻『孟子』と共通する部分を持つことから、子思が唱「義」「礼」「智」「聖」の五つの行いに関するもの。その内容・語彙が、西氏が取り上げた馬王堆漢墓と郭店楚墓から出土した『五行』は、「仁」西氏が取り上げた馬王堆漢墓と郭店楚墓から出土した『五行』は、「仁」

非十二子の記述があまりに断片的すぎることから、 家の批判、 め手にはならないだろうと慎重な態度を取る。本講演では主にこの え孟軻がこれを敷衍したとする「五行」(『荀子』非十二子)と結びつけ の内容・思想を概観、 思孟学派の重要文献と位置づけられた書物である。ただ、西氏は 儒家による反論について取り上げられた。 特にその人治思想や、それに対する法家や道 両者を結びつける決

## 甲骨文字と骨占い

て、

毎月、第三土曜にキャンパスプラザ京都

大学院等共同サテライトに

『漢字学研究』

年間十回の研究会を開いている。成果は

現するという。 を彫らない場合、 を独自に行う過程で、甲骨背面に彫られた漥みに着目。この背面の漥み 割れの形によって吉凶を判断する。落合氏は、この甲骨占トの再現実験 を利用した政治であったことを確認できたとする ト結果を操作しうることがわかり、殷王朝の「神権政治」 の甲骨と同様の漥みを彫ると、殷代と同様の「卜」字形のひび割れが出 甲骨占卜は、 落合淳思 この結果、 亀の腹甲もしくは牛の肩甲骨に熱を加え、 (立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所客員研究員) ひび割れの形状は完全に予測不能だったが、 殷王朝の甲骨占卜は、 殷王が望んだ内容に占 出現したひび が神への信仰 逆に殷代

莉

### 第 部 シンポジウム:中国古文字学研究の最前線

専門とする本研究所客員研究員の佐藤信弥氏をパネラーに加えて行われ 議論が行われた。 に関する学習参考書にどう反映させていくか?」というテーマで活発な に戦国竹簡に関するもの)を一般向けの字書の解説や『漢字の成り立ち』 史料をどう扱うか?」や、「中国古文字学の新しい研究成果や新出史料 回答したほか、 た。司会は大形徹氏。 後半のシンポジウムは、 「青銅器や簡牘に関して、考古学的な発掘を経ていない シンポジウムではフロアからの質問にパネラー 第一部でご講演いただいた三氏に、 西周史を

> 号に掲載予定である なお、本シンポジウムの詳細な報告については、『漢字学研究』第七

# 漢字学研究会活動報告(二〇一八年度)

副所長 大 形 徹

究発表・講演、 組の司会、 界漢字学会が開かれるため、杉橋隆夫所長が挨拶を行なった。 猫」(董濤と共著)」を行なった。二〇一九年度に立命館大学で第七届世 (二)』、『五行禁日』綴合校釈」、主題発言として大形徹「工具書中的 的基礎研究」·名和敏光「馬王堆漢墓帛書『陰陽五行』 甲篇『雑占之六』、『築 知工具与表意文字歴史研究 エアランゲン=ニュルンベルグ孔子学院で第六届世界漢字学会 「啻」到伝世文献的「禘」」・山田崇仁「関于建構殷周金文標準字元編碼 本年は十月六日と七日にドイツのフリードリヒ・アレクサンダー大学 「日本漢字認識与教育的課題」·佐藤信弥「説「禘」―従甲骨金文的「帝」、 張・佐藤・山田・名和はコメンテーターを務めた。 講座を以下に記す。 が開かれた。本会から分組発言として、張 大形は分 会員の研 漢字認

五月十八日、 佐藤信弥「金文中有関軍功的釐字」(中国文字学会、 湾国立中央大学 台

九月十五日、 佐藤信弥「礼説のはじまり―禘祭を例として―」 ジア恠異学会第一一九回定例研究会 (東ア

十月二十四日、 大形徹「王屋山与天壇」 清華大学 (洞天福地与文化意象、 中国

十二月一日、 山田崇仁「聖武天皇第一王子の諱について」(日本漢字 大学校

学会、京都大学

二月一日、 佐藤信弥 「周王朝と祭祀儀礼―献捷儀礼を中心に見る」 (怪 異学セミナー 怪異学の地平、園田学園女子大学公開講座

二月二十六日~三月一日、 大形徹「白川文字学」(福井大学·県立大学

工業大学等五大学対象集中講義、AOSSA)

三月二·九日、 佐藤信弥 「中国古代史研究の最前線 ―近年の発見から

見る文字文化の 命館大学大阪いばらきキャンパス他 誕生と伝承」(漢字教育士研修会、立

四月~二月、 人間と文化、漢字学一・二、大形徹(二講) (放送大学大

阪学習センター

四月~二月、 村上幸造(二講)、笠川直樹(十四講)、横大路綾子(二講)、 一・二年漢字学コース (全四十講)、 末次信行 (二講)、

佐藤信弥 (二講)、大形徹 (一講) (姫路市立生涯 学習

ポジウム「古代文字学研究の最前線」は前項でとりあげた。 二月二十四日の白川静記念東洋文字文化研究所・漢字学研究会のシン

字説一 大形徹、上古音入門、古文字文献提要五、落合淳思·秋山陽一 之·草野友子、金文通解四、末次信行·秋山陽一郎·松井嘉徳·笠川直樹 『漢字学研究』第六号を十月三十日に刊行、論考三 湯浅邦弘・福田哲 郎

(大阪府立大学大学院教授

山田崇仁・村上幸造・佐藤信弥、古文字学論著目一、佐藤信弥

以下、 議事録より摘録

第六十二回 四月二十一日

研究発表:村上幸造「上古音概説―通假字を知るために―その二」

献本:末次信行「司馬談作「刺客列伝」考」「楊惲伝にみえる『漢書』 合評会:佐藤信弥『中国古代史研究の最前線

第六十三回 五月十二日

研究発表:佐藤信弥「叔矢方鼎

第六十四回 六月二十三日

報告:佐藤信弥「第二十九届中国文字学国際学術研討会参加報告」

研究発表:三輪健介「静方鼎

年五月

献本:落合淳思『十五種甲骨集同片綴合表』

(朋友書店、二〇一八

第六十五回 七月二十八日

研究発表:佐藤信弥「乾甗

第六十六回 九月八日

研究発表:村上幸造氏「伯唐父鼎

報告:山田崇仁氏「台北資料調査報告

献本:草野友子『ビギナーズ・クラシックス 中国の古典 墨子』(角

川文庫、二〇一八年九月

第六十七回 十月二十日

報告:佐藤信弥・山田崇仁「世界漢字学会第六届年会参加報告

研究発表:松宮貴之「古代中国に於ける「墨」字の意味変遷と、そ

の原義についての一試論\_

第六十八回 十二月二十二日

新出金文講読:村上幸造「伯唐父鼎」(続

献本:落合淳思『甲骨文小字典』(中文

第六十九回 一月十二日

研究発表:福田哲之「水泉子漢簡七言本

『蒼頡篇』

第七十回 二月二日

研究発表:笠川直樹 「子弾庫楚帛書にみえる災異説

献本:『東方』第四五六号 (佐藤信弥

# 二〇一八年度連続公開講座

容員研究員 高島 敏夫

「連続公開講座」の企画は、白川静先生没後十年を記念して始めたものだが、好評を得たので続けているものである。二○一七年度は甲骨文に関する講座、二○一八年度は金文に関する講座を実施した。甲骨文では、初回の冒頭に基本的な字形について一通り説明をした後、甲骨片には、初回の冒頭に基本的な字形について一通り説明をした後、甲骨片にはこれた下辞を文章として読み進めていった。OHCを使って手元を映し出しながら、実際に書くところを見ていただくという趣向である。甲骨文には特に筆順など決まっているわけではなく、私自身が慣れ親しんだ書き方で書いていくのを見ていただき、同じ要領で受講者にも書いていただいた。実際に書き進めてみると、文字が単なる文字ではなくやはり言葉を記したものであることが実感できるようになる。これが重要なり言葉を記したものであることが実感できるようになる。これが重要なのである。

金文は、甲骨文をそのまま継承した文字であるから、文字の構造は同金文は、甲骨文をそのまま継承した文字である。多少違って見えるのは、青銅器に刻されるため文字も大きく、じである。多少違って見えるのは、青銅器に刻されるため文字も大きく、じである。多少違って見えるのは、青銅器に刻されるため文字も大きく、時代の金文(銘文)を通して歴史の現実を読みとる」というテーマで、時代の金文(銘文)を通して歴史の現実を読みとる」というテーマで、ま文は、甲骨文をそのまま継承した文字であるから、文字の構造は同金文は、甲骨文をそのまま継承した文字であるから、文字の構造は同金文は、甲骨文をそのまま継承した文字であるから、文字の構造は同金文は、甲骨文をそのまま継承した文字であるから、文字の構造は同金文は、甲骨文を入り、

拡大と「天の思想」第一回 西周時代前期の金文を読む――殷から周への激動期。領土の

第二回 西周時代中期の金文を読む――国境の防衛。任官式と王朝の

#### 建。

戦い。王朝の行方。 第三回 西周時代後期の金文を読む――土地争い。異民族との熾烈な

連続公開講座を実施する方向で検討しているところである。といれ来事と歴史書に記された内容との差異も少なくなく、そこから歴史の出来事と歴史書に記された内容との差異も少なくなく、そこから歴史の出来事と歴史書に記された内容との差異も少なくなく、そこから歴史の出来事と歴史書に記された内容との差異も少なくなく、そこから歴史の出来事と歴史書に記された内容との差異も少なくなく、そこから歴史の出来事と歴史書に記された内容との趣向を踏襲した形だが、金文資料に記された

(文学部非常勤講師





# ·鯱旗+R甲骨体] 「鯱旗+R金文体」公開

運営委員 萩 原 正 樹

旗

けのプレスセミナーを開催し、 R甲骨体」「鯱旗+R金文体」についての紹介を行いました ての説明を行い、続いて、 いたしました。当日は、萩原正樹(文学部教授)より白川文字学につい 二〇一八年十一月十三日、立命館大学東京キャンパスにおいて記者向 シヤチハタ株式会社の坂井氏より、 「鯱旗+R甲骨体」の制作について発表 「鯱旗

だような線に鋭さを持たせたデザインで、線の太さの統一感を持たせた るように設計されています。 イメージでデザインすることで、文字が並んだ時に整然とした印象が出 て残して制作されました。文字の不安定さをあえて維持し、刃物で刻ん いずれもJIS第一水準、第二水準の約七〇〇〇文字に対応しています。 協力を受けて制作した、甲骨文字と金文を使ったオリジナル書体であり 製造するシヤチハタ社が、立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所の 「鯱旗+R甲骨体」は、甲骨文字の特徴である文字の不安定さをあえ ·鯱旗+R甲骨体」「鯱旗+R金文体」は、印章・スタンプ・文具等を

ています。 デザインで、鋳造による線の太さや黒味があるイメージでデザインされ 「鯱旗+R金文体」は、甲骨文字と比べてより丸みや太さをもたせた

すべきですが、一方で、本来であれば甲骨文字が存在しない現代の漢字 についても表記することが可能になるため、一般的な文字として利用す たがって、一部の文字については学術的な根拠が十分でないことは留意 これらの書体は、 他の甲骨文字や金文を組み合わせて作成されています。 甲骨文字・金文がルーツとなっていない現代の漢字

> の展示企画において、シヤチハタ社のスタンプ作成機「OSMO」に「鯱 すでに二○一八年一○月二十一日に開催された立命館大学内のイベント サービスへの展開については現在検討中ですが、一つの活用事例として、 る場合には、 + R甲骨体」の文字を使ったスタンプが配布されました 今後の活用について、これらの書体を使った商品やシステム、ウェブ 利便性が大きく向上し、活用の幅が広がりました。

教育システムとの連携を強めていきます。 字研究の深化と普及をいっそう推進するとともに、学内外の研究機関 今後も、 白川静記念東洋文字文化研究所では、 甲骨・金文をはじめ漢

(文学部教授

#### 鯱旗明朝体 竜 象 火 鯱旗+R 甲骨体 蛋 E 品 Ø 鯱旗+R 金文体 ぎ 尹 聚 ىك 髙

# 教育活動報告(二〇一八年度)

## 研究員後藤 文男

(白川WG)の先生方を中心に、以下のような活動を展開しました。──二○一八年度も各附属校の「白川式漢字学習法ワーキンググループ」

①漢字ワークシート『成り立ちとつながりで学ぶ漢字35』の作成。

②「白川静パネル展」の開催。

品が充実してきています。文化事業部門の協力で、年々甲骨・青銅器のレプリカの数が増え、展示文化事業部門の協力で、年々甲骨・青銅器のレプリカの数が増え、展示今年度は大掛かりなパネル展は開催しませんでしたが、「白川研」の

す。各校とも三年に一回程度の巡回展を開催するよう検討を進めていきま各校とも三年に一回程度の巡回展を開催するよう検討を進めていきまを生み出した古代の社会を身近に感じることのできる学びの場として漢字白川先生の紹介パネルと甲骨・青銅器のレプリカの展示を通して漢字

方の主な取り組みは、 3「白川文字学に基づいた漢字学習(白川漢字)」の取り組み。 3「白川文字学に基づいた漢字学習(白川漢字)」の取り組み。

·二〇一八年六月 立命館中学校公開授業研究会(兼附属校国語科

研究会)中学二年「手の七変化」村田先生

- 年 川辺先生 「ワークシート第1集」と冊子「白川静」を用いた授業 中学一
- の実践。年間を通して五十三時間。大橋先生・立命館小学校一年生から六年生までの「読書」の時間に白川漢字
- 川先生の生涯『学ぶは人生』」の授業。五年生 長谷川先生・二〇一八年九月立命館小学校「口は口ではない」二年生、十月「白で小学生を対象に「古代文字スクラッチ」に取り組む。大橋先生・二〇一八年十月 立命館小学校保護者会行事「プライマリデー」

④「白川漢字」を学ぶための新教材の開発

昨年度からiPadを用いた漢字学習にも取り組んでいます。「ロイロノート」と呼ばれる双方向で学ぶことのできるシステムを使っての学習ですが、今年度は立命館小学校を中心に「ロイロノート」を用いた授業であとロイロノートを使って公開授業を行いました。「読書」担当の大橋輝子先生が、立命館小学校のの実践を行いました。「読書」担当の大橋輝子先生が、立命館小学校のを国公開授業研究会で「手からつながる漢字」をテーマに、四年生の児室たちとロイロノートを使って公開授業を行いました。仲間とともに漢字の成り立ちを推理し、ロイロノートを使って互いに交流したり、確かめ合ったりしていました。成り立ちとつながりをもとに漢字を楽しく学め合ったりしていました。成り立ちとつながりをもとに漢字を楽しく学め合ったりしていました。成り立ちとつながりをもとに漢字を楽しく学が合ったりしていました。成り立ちとつながりをもとに漢字を楽しく学が合ったりしていました。成り立ちとつながりをもとに漢字を楽しく学が入ったりしていました。成り立ちとつながりをもとに漢字を楽しく学を向いたり立ちといます。

⑤白川文字学に基づいた漢字講座等の開催。(担当:後藤)

字探検隊」、午後からは幅広い年齢層の方々に漢字講座を受講していた度は夏休みの時期とも重なったため、午前中は小学生を対象にした「漢年度同様毎回八十名近くの熱心な方々に参加していただきました。年年度同様毎回八十名近くの熱心な方々に参加していただきました。昨ばて歩く人」(八月二十六日)②「病とたたかう人」(八月十九日)③「旗を掲げて歩く人」(八月二十六日)②「病とおかう人」(八月十九日)③「旗を掲げて歩く人」(八月十五日)②「病を掲げて歩く人」(八月十五日)③「旗を掲げて歩く人」(八月十五日)②「病とたたから人」(八月十九日)③「旗を掲げて歩く人」(八月十五日)②「病を持ていた。

だきました。

八月六日~十日まで白川漢字WGの先生方が中心となって「漢字のふるさと」を訪ねる中国研修に行きました。全国から集まった漢字教育士の方々も含め十七名の参加者で、古代の城郭が残る鄭州、殷墟と古代文字博物館のある安陽・古都洛陽を実際に歩き、古代の息吹を感じて帰ってきました。これからの活動に大いに刺激を受け、同時に仲間としての字博物館のある安陽・古都洛陽を実際に歩き、古代の息吹を感じて帰ってきました。

や教育家庭新聞社などで取り上げられました。
開かれ、「白川文字学と教育実践例」を報告しました。産経新聞(全国版)
別のれ、「白川文字学」とその成果」と題するプレスセミナーが
と漢字を結ぶ「白川文字学」とその成果」と題するプレスセミナーが

ていきたいと考えています。引き続き「白川文字学」の普及と教育現場での取り組みを旺盛に展開し引き続き「白川文字学」の普及と教育現場での取り組みを旺盛に展開し二〇一八年度も多岐にわたる活動をしてきましたが、二〇一九年度も

(立命館小学校学校長)



## 体験型漢字講座「漢字探検隊.

文化事業活動報告(二〇一八年度)

文化事業担当職員 久

保

裕之

のもとになった自然や文化を学習する体験型の講座である。全国での開マとして、座学だけではなく、見学や体験を通して漢字の成り立ちとそ二〇〇七年度より始まった「漢字探検隊」は、毎回一つのものをテー

催回数はまもなく二○○回を迎える。二○一八年度は、広島市で六年ぶ

仙台市では初めての開催に、いずれも定員の二倍以上の申し込みが

あった。あったほか、全国八府県で一五回開催され、延べ約一一〇〇名の参加があったほか、全国八府県で一五回開催され、延べ約一一〇〇名の参加が

ŋ

の協力を頂いている。 各地の開催では「漢字を楽しむ会」遊」等の団体や各地の漢字教育士

石川	宮城	福島	広島		兵庫		拉拉	松		1	it is		力	芡 或	地域
3	1	12	8	1	7	6	16	15	58	57	56	55	19	18	回数
2 0 1 8 · 12 · 14	2 0 1 8 10	2 0 1 8 9	2 0 1 8 5	2 0 1 8 12 16	2 0 1 9 · 2 23	2 0 1 8 8	2 0 1 9 1	2 0 1 8 6 17	2 0 1 8 12 9	2 0 1 8 · 11 · 23	2 0 1 8 · 10 · 6	2018.6.3	2 0 1 9 1	2 0 1 8 11 18	日付
人間	動物	漢字あそび	産業	人体	動物	植物	古代文字	古代文字	篆刻	禊ぎ	建物	古代文字	古代文字	自然	テーマ
漢字ジェスチャー大会	動物園で漢字と出合う	漢字あそび大会イン福島	広島の産業と漢字	赤穂漢字探検隊	動物で漢字と出合う	植物園で漢字と出合う	古代文字をスクラッチ	古代文字パズルを作ろう	はんこを彫ってみよう	みそぎと漢字	二条城で漢字と出合う	古代文字をスクラッチ	漢字パズルを作ろう	自然博物館で見られる漢字の秘密をさぐれ	タイトル
北國新聞文化センター	八木山動物公園	福島市こむこむ館	広島市郷土資料館	正覚寺	姫路市立動物園	姫路市立手柄山温室植物園	草津市市民交流プラザ	草津市市民交流プラザ	立命館朱雀キャンパス	浪切不動寺	元離宮二条城	立命館朱雀キャンパス	つくばインフォメーションプラザ	茨城県自然博物館	会場
30	49	211	98	47	80	75	73	113	54	37	91	93	20	39	参加者数

では、

主会場

年一○月開催の立命館大学校友会による「オール立命館校友大会イン仙

(仙台国際センター) と仙台駅コンコースに「白川

校友や市民の好評を得た。

卒業の書家である華雪氏を招いて講座を開催、

洋のエスペラント」

講座を開催、また東京キャンパスでは、今年も本学

好評を博した。二〇一八

の世界―漢字と遊ぼう」ブースを開設、

## \_\_ 2018年5月

広島漢字探検隊



## 学内他組織との連携事業

教材として使用されている。 ちとつながりで学ぶ漢字シート35』 ループ 立命館附属校教員との白川文字学に基づく漢字教材制作ワーキンググ (詳細は別稿に)も四年目を迎え、その研究出版である『成り立 第三集も間もなく刊行の予定である。 は第二集まで刊行、 附属小中学校で

センター」では、「白川文字学」を重要なテーマに位置づけ、 奈川県、 母教育懇談会) ンパスにおいては、二〇一八年五月から七月にかけて「漢字・漢文は東 立命館大学が展開している社会人向け学習組織 立命館大学が全国各地で開催している立命館大学1日キャンパス(父 岐阜県、 の中の「アカデミック講演会」は、 広島県会場で漢字教育士が出講した。 「立命館アカデミック 白川研関係では、 大阪キャ 神

#### 2018年10月 仙台漢字探検隊

の会 校 を開講、八科目を修了すると「漢字教育士」資格が取得できる このほか、 放送大学大阪学習センター (京都市)、

(大阪市)では同校の面接授業に「漢字学」

の開設などを行った。 鍼灸学会 グネーチャー協会(東京都)から出張講座に招かれた。また、日本伝統 (石川県金沢市)、北國新聞文化センター (同上)、 (東京都) 国土技術政策総合研究所 摩気高山こども未來塾 の全国大会では白川研が共催し、 (詳細は別項に (京都府南丹市)、 (茨城県つくば市)、 講演や展示ブー 京都高齢者大学 日本シェアリン 石川漢字友



2018年11月 つくば漢字探検隊



2018年11月 京都漢字探検隊

## 他の機関との連携

命保険株式会社と株式会社

会からの協賛を受けている。 より一挙に八千通増えて約二万一千通を数えた。本コンテストは富国生 との共催で開催している「創作漢字コンテスト」は、 な輩出元となっている。 報交換等が活発に行われ、 成講座事業の受託を契機に、 公益財団法人日本漢字能力検定協会 第九回目を数える産経新聞社(東京都千代田区) 七〇〇名近くを数える「漢字教育士」 同検定受検者への当研究所の広報活動 (京都市) とは 応募者数が昨年度 「漢字教育士」 の重要



## 自治体との関わり

会」への講師派遣を受けたりするなど、緊密な関係が続いている。 や「白川文字学こども漢字教室」への講師派遣、また「漢字教育士研修 井県白川静漢字教育賞」への協力、「福井県白川文字学ゼミ公開講座 る。この取組はさらに中学・高校教育の領域へ広がりを見せている。 策を実施しており、 福井県では小学校に「白川文字学」に基づく漢字教育を取り入れる政 県内に拠点校を設け、研修や学習会が開催されてい

津漢字探検隊\_ 漢字教育を側面支援するため、草津市教育委員会との共催事業として「草 も二○一八年一○月開催の漢字検定受検を目標に学習を進めた。 ら始まり、 いる。また同市立常盤小学校および南笠東小学校の課外授業に招かれた。 て漢字・計算・英語の三検定の受検に取り組むようになった。そのうち と学習意欲の向上を図るため、二〇一〇年度より市立の全小・中学校に 教育研究連携に関する協定を締結しているが、同市では基礎学力の定着 びわこ・くさつキャンパスを擁する立命館大学と草津市とは、すでに 兵庫県朝来市和田山生涯学習センターでの市民講座は二〇一一年度か 八年目を迎えた。五月から一一月まで連続開催され、今年度 が二〇一一年度から始まり、年二回の開催も定例化して

各三回 温室植物園と市立動物園で開催した。この他、 年度には第四期生の募集も確定している。「漢字探検隊」も市立手柄山 姫路市生涯大学校で開講中の「漢字学」は第三期生も入学、二〇一九 (三回)、 主催の講座に招かれた。 大阪府河内長野市 「くろまろ塾」(大人・子供対象講座 京都府宇治市生涯学習セ



2018年10月 京都漢字探検隊



2019年2月 姫路漢字探検隊

# 東日本大震災復興支援活動「漢字で元気に」

協力を仰いでいる。 に招かれた。福島市と角田市での活動では、福島大学・澁澤尚研究室の 田市では市文化芸術振興会の主催による「漢字であそぼう」のイベント は福島市こむこむ館での「漢字あそび大会」を開催した。また宮城県角 二○一一年一○月に福島市と宮城県角田市とで活動を開始、二○一八年 うに、さまざまな話題や知識を提供する活動を行おうとする試みである。 ように、そしてそこから生まれてくる絆の力を震災復興に向けられるよ 字・日本語を、家族をはじめとするコミュニティーの交流ツールとなる 支援活動の一つとして、年齢・性別に関わらず共通の話題にできる漢 「漢字で元気に」は、二〇一一年三月に発生した東日本大震災の復興

# 第九回創作漢字コンテスト

研究顧問 加 地 伸 行

三十年十二月二六日付産経新聞紙上に発表された。 本研究所と産経新聞社との共催である創作漢字コンテストの結果は

もかなりあると考える。 ている感じのものがかなり見られるところから言えば、各校教員の勧め の影響か、中学生の応募が非常に多かった。また、教員がまとめ役となっ 応募総数二万九五八点で、二万の大台を越える盛況であった。今回か 高校生以下の部を高校生の部と小中学生の部との二つに分けたこと

争する)である。 最優秀賞は二点。「鬼」(こころを鬼にする)・「皆」(比較する・競

催

「舥」(ジョンまんじろう)・「飔」(花吹雪)等。 優秀賞は二十点。例えば「冬」(キラキラネーム)・「毒」(分数)・

同じテーマでありながら発想の相違で変わる好例である その他、「槐」(鬼ごっこ)・「炒」(チアガール)・「天」(昇って天下り)・ 優秀賞にレインコートとして、「桶・製」の二点が同時入賞した。

「-**九**」(カレンダー)・「 **直**」(日直) など楽しませてくれた。

創作力は無限と実感している。 しも何かアイディアがあれば、 来年は第十回となるので、特別な催しものをしたいと思っている。 御教示いただければありがたし。漢字の

(大阪大学名誉教授

# 日本伝統鍼灸学会全国大会について

文化事業担当職員 久 裕之

る格好の場となった。 場するという画期的な大会となり、「市民に開かれた学術」の姿を考え よびワークショップを開催した。学術大会に多くの市民、特に子供が来 たイベントが行われ、白川研も古代文字資料や漢字あそび教材の展示お 木漢字探検隊―漢字ジェスチャー大会」が行われた。また展示では先述 別公演「死の不安の解決は」と久保裕之・白川研文化事業担当による「茨 れる内容が多く開催され講演では、加地伸行・白川研研究顧問による特 がこの地の出身であったことから、茨木は「鍼の聖地」と称されている。 た「体内の虫」を描いた『針聞書 ス(大阪府茨木市)で二〇一八年一一月二四・二五日に開催された。(共 会の「第四六回学術大会 大阪大会」が、立命館大阪いばらきキャンパ 究・教育、普及・啓蒙の活動を行っている全国的組織の団体である。 術の構築および現実の医療に関わる鍼灸臨床学の確立や伝統鍼灸の 中国の医学古典を基本とした日本伝統の鍼灸を研究対象としており、 大会は会員を対象とする行事だけではなく、広く茨木市民にも開放さ 日本伝統鍼灸学会は、一九七二年創立の「日本経絡学会」を基にし、 「体内の虫」をキャラクター化した「ハラノムシ・ワールド」と題し 白川研、茨木市)戦国時代に書かれた、病気の原因と考えられてい (はりききがき)』の著者・茨木元行

# 八年目を迎えた「漢字教育士」の活動

講も増えています。

また公益財団法人日本漢字能力検定協会(漢検協会)

文化事業担当職員 久 保 裕之

本語 格は生まれました。 世の中に漢字文化の種をまき、 を広げ、 かわらず広く使われる媒体です。 につけた方です。 過し、今では資格認定者がまもなく七〇〇名を数えるまでになりました。 二〇一一年度に創設した 漢字教育士」とは、 の状況を理解し、 絆を強めるものになることを期待しています。 漢字の楽しさを知った方が、それを伝えることにより 日本の社会においては、 幅広い知識を有するとともに、 漢字の成り立ちや文化的背景、 「漢字教育士」資格認定制度もまる八年が経 花を咲かせようという思いから、 「漢字教育士」 漢字・日本語は老若男女か の活動が、 「教える力」 現代の漢字 人々の交流 この を身 資 Н

②漢字教育士資格認定時ェブ講座の修了の二つです。漢字教育士資格認定講座の方式は、①指定機関での指定科目の修了、

申込の 座で学んでおり、 単位を取得して「漢字教育士」 取得の条件となっており、 が毎学期開講されており、 指定機関としては、放送大学大阪学習センターでの面接授業 また姫路市生涯学習大学校では、二〇一六年度より二年コースの が開講しました。 ある人気科目となっています。 二〇一九年度にも第四期 現在第二期生 その取得には最短四年かかりますが、 毎回関西地方をはじめとする全国からの聴 の取得をされた方も五名いらっ 八単位取得が ・第三期生各七〇名の方が対面 (生の募集が行われました。 「漢字教育士」 「漢字学 地 道 ま

講座の

つとして行われています。

時間的

空間的

制限がない

のでどな

- の直

Ĺ

ブ講座は二〇一六年二月より立命館アカデミックセンター

たでも受講でき、

H

本国内はもとより、

海外在住の

日

本人

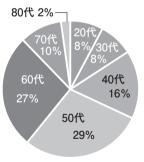
・外国人の受

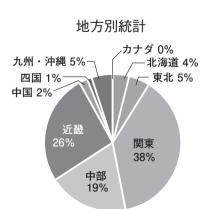
修了、四月からは第八期の受講が始まります。 修了、四月からは第八期の受講が始まります。 にの漢字能力を社会に還元できる人材を育てようと「漢検漢字教育サ大の漢字能力を社会に還元できる人材を育てようと「漢検漢字教育サ大の漢字能力を社会に還元できる人材を育てようと「漢検漢字教育サ大の漢字能力を社会に還元できる人材を育てようと「漢検漢字教育サ大の漢字能力を社会に選元できる人材を育てようと「漢検漢字教育サ大の漢字能力を対象をといます。漢検協会は漢検受験で培った個との提携も大きな効果を上げています。漢検協会は漢検受験で培った個との提携も大きな効果を上げています。

秀賞」 課程修了による認定者の内訳は左の表の通りです と特別認定者二一 在六六九名で、 字教育士同士による学習会が作られ、 一氏の活動が高く評価され、 漢字教育士の活動拠点は全国そして海外に広がっています。 が授与されました。 内訳は名誉漢字教育士二名 名、 課程修了による認定者六四六名です。 漢字教育士の有資格者は 「第六回福井県白川静漢字教育賞 さらに静岡県の漢字教育士・ (白川静博士と武田鉄矢氏 九年! そのうち 各地で漢 一月末現

ジにリンクされている公式ページをご参照ください。 漢字教育士資格認定ウェブ講座の詳細については、白川研ホームペー







# JMOOC(オンライン公開講座)

違いについても学習する内容となっており、多くの方が受講しました。 ともに、漢字文化圏である日本・中国・台湾等における様々な共通点や 川文字学への招待―漢字と東洋の歴史文化―」が開講されました。 各週のテーマと講師は次の通りです。 二〇一八年三月から四月に、白川静記念東洋文字研究所企画による「白 本講義では、「白川文字学」に基づき漢字の成り立ちや歴史を学ぶと JMOOCは、無料で学べる日本最大のオンライン大学講座です。

第一週

白川学と漢字の発祥

講師:杉橋隆夫、加地伸行、 高島敏夫

#### 第二週

中国思想と白川学の展開

講師:大形徹、 張莉

#### 第三週

現代社会と漢字

講師:前田亮、久保裕之、後藤文男

#### 第四週

白川静の人と学問

講師: 芳村弘道、

萩原正樹

二〇一九年

一月二十六日

第十六回

|感覚について\_

## 「文字講話」特別上映会

この会は、白川静先生が一九九〇年から二〇〇五年に亘って行われた連 耳を傾けておられます。いよいよ来年三月末で全二十四話が終了します。 よる講演をご覧いただけます。毎回多くの方が参加され、 続講演「文字講話」の映像を上映する会で、白川静先生の肉声と映像に 字講話」特別上映会は、今年度で十八話(全二十四話)を終えました。 二〇一八年 白川静博士没後十年企画の一環として二〇一七年十月に始まった「文 四月二十一日 第七話 「祭祀について」 熱心に講演に

五月二十六日 第八話 |国家と社会

六月二十三日 第九話 「原始法について」

七月二十一日 第十話 「戦争について」

八月二十五日 第十一話 都邑と道路

九月二十二日 第十二話 生活と医術

十三日 第十三話 歌謡と舞楽

十月

十一月二十四日 十二月二十二日 第十五話 第十四話 「人の一生 思想について」

第十七回 載書字説

二月二十三日

三月二十三日 第十八回 「文字の構造法について」

### 書籍紹介

立命館白川靜記念

東洋文字文化研究所紀要第十二號

(立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所 二〇一八年三月)

漢字学研究 第六號 立命館白川静記念東洋文字文化研究所編

(立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所 二〇一八年十月)

TO COLOR OF STREET STRE

## \*表紙の写真について

になってしまった。遅引については読者にお詫びしなければならないけ本号は三月末の刊行を目指していたが、諸般の事情で年度を跨ぐ結果

たい経験を共有することとなった。れども、お陰で我々は新元号の公表とその後の騒動とを目撃する、得がれども、お陰で我々は新元号の公表とその後の騒動とを目撃する、得が

川学」の原点であった。

「学」の原点であった。

「学」の原点であった。

「学集』とでは、新日本文学大系本による)とされたが、白川先生せたり」(岩波書店、新日本文学大系本による)とされたが、白川先生

一九九五年)。そしてこうも述べている。論』と『後期万葉論』である(ともに中央公論社刊、初版各一九七九年・義紙に掲げた写真は、白川博士の『万葉』研究を纏めた『初期万葉

りからであった(『初期万葉論』「あとがき」)はじめに中国の古代文字に志したのも、そのことを準備する心づも『万葉』についての考説を試みることは、私の素願の一つである。

# 【今年度の事業計画について】(当面の予定)

◆「文字講話」特別上映会 十一時~十三時

六月十五日第二十一話「甲骨文について」五月十八日第二十話「漢字の将来」

七月二十日 第二十二話「金文について(Ⅰ)」

ユー・オー 第二十三話「金文について(Ⅱ)」八月十七日 第二十三話「金文について(Ⅱ)」

▼「白川静記念東洋文字文化賞」表彰式 六月二十二日九月十四日 第二十四話「金文について(Ⅲ)」

• 「第七回世界漢字学会」九月二十七日~二十九日

◆「立命館土曜講座公開講座」九月二十八日 ▼「立命館土曜講座公開講座」九月二十八日

◆「第六回東亜漢籍交流国際学術学会」(韓国)十月十二日~十三日